

新たな東寺方複合施設の  
「管理運営に関する考え方」「将来の目指すべき施設像」について

# 1 管理運営に関する考え方について

## 市の基本的な考え方

### コミュニティ施設の今後のあり方に関する基本方針(抜粋)

	コミュニティセンター	コミュニティ会館
管理業務 (ハード部分)	市が民間事業者への委託等により直接行う(光熱水費、設備保守点検、清掃等)	
運営業務 (ソフト部分)	住民組織による運営協議会が指定管理者として職務を代行することが原則	住民組織による運営協議会が指定管理者として職務を代行することを原則とするが、民間事業者が指定管理者として職務を代行すること、市が直接運営することも可能

#### • 運営協議会方式 (原則)

地域住民によって組織された運営協議会が指定管理者として運営を担う方式

市としては地域協創の拠点であるコミュニティ施設は地域の方々に運営していただきたいと考えています。

#### 運営協議会形式が難しい場合 (例外)

- 民間事業者への委託方式
- 市直営方式

# 1 管理運営に関する考え方について

参考:和田・東寺方コミセン運営協議会(大栗川・かるがも館の指定管理者)の人員体制

## ①運営委員

組織体制	専門部の所掌分野	名簿記載人数
役員	運営協議会の役員	7人
総務部	館の日常運営に関すること	7人(兼務者加算11人)
広報部	広報誌やホームページの作成	4人
文化部	文化や芸術に関する催しの企画	8人(兼務者加算9人)
健康福祉部	健康と福祉に関すること	6人
環境部	環境に関すること	4人
		<b>36人</b>

## ②協力員

協力部	協力分野	名簿記載人数
総務部	歌声の集い	3人
	図書	2人
	事務局業務補助	1人
広報部	広報誌	1人
	館内装飾	6人(兼務者加算7人)
文化部	—	5人
健康福祉部	ウォーキング	3人
	健康体操	5人
	PC相談	2人
	かるがもっこひろば	8人(兼務者加算9人)
	—	2人
	—	<b>37人</b>

## ③事務局職員(有給)

勤務形態	名簿記載人数
事務局長	1人
1日勤務	3人
時間勤務	5人
夜間勤務	5人
	<b>14人</b>

①運営委員 36人  
 ②協力員 37人  
 ③事務局職員 14人  
 = 87人

市の直営ではないからこそ、地域の多くの方々に支えられ、地域のニーズに合わせた様々な事業を展開できています



運営委員の一人

# 1 管理運営に関する考え方について

## 現施設の管理運営体制

現施設の機能	運営方式	施設管理所管課	事業運営所管課	事業運営者	事業運営協力者
老人福祉館 地区市民ホール	市直営方式	協創推進室	協創推進室	協創推進室	—
図書館	市直営方式		図書館	図書館	読み聞かせ活動団体等
児童館	市直営方式		児童青少年課	児童青少年課	—



## 新施設の管理運営体制(イメージ)

新たな施設の機能	運営方式	施設管理所管課	事業運営所管課	事業運営者	事業運営協力者 (ボランティア、委託、連携等)
<b>コミュニティ会館</b>	<b>運営協議会方式</b>	協創推進室	協創推進室	<b>運営協議会 (指定管理者)</b>	<b>地域住民 児童館・児童センター 保育園・幼稚園 民間事業者・学生等</b>
図書館	市直営方式		図書館	図書館	読み聞かせ活動団体等

子どもは地域コミュニティの重要な一員であることから、子どもの居場所をコミュニティ機能の一部と位置付け、運営協議会と子育てに関する専門的な人財とが連携協力しながら運営するイメージです

# 1 管理運営に関する考え方について

## 子どもの居場所のイメージ

単に施設として子どもの居場所を整備するだけでなく、子どもたちを見守り、子育てに関する相談に応じることができる人財の確保を目指します。

## 子どもの居場所の事業運営協力者のイメージ

- ▶ 地域住民  
子育て経験者や子育てに関する専門知識をもつ地域住民の参画を検討
- ▶ 児童館・児童センター  
児童館・児童センターから職員をアウトリーチする頻度や時間帯等を検討
- ▶ 保育園・幼稚園  
保育園・幼稚園による子育てひろば事業等の実施可能性を検討
- ▶ 民間事業者・学生等  
見守りや相談だけでなく、新たな子ども向けサービス（例：宿題クラブ等）の実施可能性を検討

コミュニティ会館の運営にあたっては、施設の建替えを機に「地域のために活動したい」という地域住民の方々の思いを大切にしながら、運営協議会の設立に向けた声があれば、市としても最大限バックアップしていきます。

地域と行政がともに手を取り合いながら、双方に無理のない持続可能な運営体制の構築に向けて、今後とも検討を進めます。

## 2 将来の目指すべき施設像について(たたき台)

### <ビジョン案>

人がつながり、学びあい、安心が育つ。  
これからの東寺方の日常を支える地域交流拠点。

- 新たな東寺方複合施設は、見通しがよく、多世代が互いに顔の見える関係を構築しやすい平屋建てのワンフロアとし、子どもから高齢者まで、誰もが安心して利用できる、地域の日常を支える公共施設を目指します。
- 多目的な利用ができるコミュニティルームや、誰でも自由に思いのまま過ごすことができるフリースペース、地域に向き合うサービスを展開する地域図書館が、ゆるやかに混ざり合う空間とすることで、子どもたちの成長を見守りながら、地域住民どうしが互いにつながり、交流する場を目指します。
- 地域住民によって主体的・自律的に運営し、行政が支えることで、20年後、30年後にも「ここがあって良かった」と実感される、使われ続ける地域の交流拠点を目指します。

### <キーワード案>

つながり、安心、子どもから高齢者まで、多世代の交流、多目的な利用、日常、見守り、地域拠点、顔が見える、明るい、自由、ゆるやかに混ぜる、学び、図書館、居場所、地域住民が主体、地域の人財、公園との親和性、、、

<愛称案>・・・(「東寺方」や「てらがた」などの地域名と組み合わせる候補、運営協議会設立準備会で検討する)  
東寺方テラス(庭、照らす)、てらがたビーボ(いきいきと、児童館愛称から)、てらがたBASE(地域拠点)、東寺方コモンズ(共有)、、、